

初等部4年 畑の発表会

「里芋と 楽しく学んだ 4年生」

真中 昭典

初等部4年生は毎年里芋を栽培しており、今回は例年の栽培の過程より発展学習に力を入れ、児童が毎日生活している中で生まれてくる「なぜ〇〇なのか。」という視点を大切にしました。グループ学習を中心に学習を行う中で、それぞれにおいてクリエイティブな視点を大切に、楽しみながら表現する力を養うことを目標とした。発表では、児童が主体的・自主的に動き、協力し、全員で試行錯誤して作り上げた。

I. はじめに

今回の学習を進めるにあたり、三つのめあてを設定した。

- ・作物をていねいに育て、よくみる。
- ・児童が主体的・自主的に動き、試行錯誤していくことで、互いの価値観を認め合い、一つのものを作り上げていく喜びを分かち合う。
- ・観察・研究を通じて学んだ内容を基に、クリエイティブなものを一つでも多く生み出し、それらを表現する力を養う。

4年生はとても色々なことを吸収し発散していく年齢のため、毎日とてもエネルギー活動が行うことができた。

II. 報告会までの学習・準備

1. 1学期の取り組み

(1) 栽培に関する学習（総合）

- ・畑作り（草取り、耕す、畝作り）
- ・種芋 6kg を植える
- ・草取り、水遣り
- ・土寄せ

(2) スケッチ（理科・総合）

- ・種芋
芽の出方、形、大きさ、手触り等をよく見る。
- ・成長の様子を比較
「芽がどのように出て、葉を伸ばしていったか」
「新芽がどのように出てきたか。どんな形か。」
「大きさはどのくらいになったか（cm）。」
→児童は、主に以下の発見をした。
茎の間から出て来た。

新しい葉はソフトクリームのようにぐるぐる巻きで入っている。

だんだんと開いていくと葉になる。

根元から出てくると思った。

葉がついているところから出てくると思った。

土の中で分かれて、別の場所から芽が生えてくると思った。

脱皮をするように、葉が落ちて、新しい葉が出て、成長をくりかえすと思った。



(3) 話し合い活動（総合・懇話・国語等）

①「展示の見せ方について」

展示物の大枠を整理した。話し合いの過程で、グループに分かれ、展示物を作成していくことで合意した。大枠になる展示物は以下の通り。

- ・学習全体の流れが分かるものを作成する。
- ・ポイントとなる内容は詳しく掘り下げてまとめる。
→畑作り・畝作り、植える、観察の様子（数回のスケッチ）、土寄せ、収穫など

- ・自主的活動の発表と展示
→すごろく・迷路作り（当日配布する）
サトイモのキャラクター作りなど

②「展示するポスターのデザインの相談」

各グループで、話し合いながら時間内で1枚のボードに当日展示するポスターのレイアウトを試作する。その後、他グループのアイデアを共有した。その際、お互いを認め合い、良い所と良くした方が良い所を最後に話し合った。



2. 2学期の取り組み

(1) 栽培に関する学習（理科・総合）

- ・草取り、水遣り
- ・芋の付き方の予想
- ・収穫

(2) 計量と計算（数学）

- ・収穫したサトイモを計量する。総重量 65.68kg
 $13.88\text{kg} + 32.98\text{kg} + 15.18\text{kg} + 1.68\text{kg} + 1.96\text{kg}$
- ・種芋（親芋）6kg から何倍に増えたかを計算で求める。

$$(\text{総重量 } 65.7\text{kg}) \div (\text{種芋 } 6\text{kg}) = 10.95 \approx \text{約 } 11 \text{ 倍}$$

- ・総計（個数）1741個

$$695 \text{ 個} + 370 \text{ 個} + 642 \text{ 個} + 34 \text{ 個}$$

- ・種芋1個から取れる平均個数

$$(\text{各々が数えた一つの種芋から取れた個数の合計 } 344 \text{ 個}) \div 14 \text{ 人} = 24.571 \dots \approx 25 \text{ 個}$$

(3) 話し合い（国語・総合・懇話）

①ポスターのデザイン案の検討

②準備運営グループ

全体ポスター・小ポスター・お楽しみ（クイズ等）・ステージ発表者・ブース案内者・実物案内（畑）の6グループに分かれ、当日まで責任



を持って作業を進めていく。（※決定にあたり、大きなグループを2つ作り、その中で分業して相談しながら進める方法と、上記のグループに分かれ各グループが決定権を持って進める方法とで話し合い、多数決にて決定した。）

③学習のタイトル決め

「里芋と 楽しく学んだ 4年生」

サトイモの形コンテスト（タイトル）決め

「発見！里芋おもしろショー」

いずれも名称は話し合いを何度も重ね、最終候補から多数決にて決定。

(4) プロジェクト（発展学習）

各々が行いたい里芋に関する発展学習をリストアップした後、グループを作り、レポートにまとめる。挙げたテーマは以下の通り。

- ・サトイモの歴史（世界・日本）
- ・サトイモの種類や仲間（世界・日本）
- ・サトイモ料理やおいしい食べ方
- ・サトイモの成分
- ・葉っぱ（表面の仕組み、枚数）
- ・病気について
- ・創作ダンス など

各グループ内で文献を集めて持ち寄り、調べる事柄を絞る。内容ごとに調べる担当を決め、各々で調べ学習を進める。締め切りを決め、調べた内容をポスター・レポートにまとめる。まとめたものは当日展示した。ちなみにこれらの発展学習は、準備運営グループと同時並行で行った。

また、ステージ発表の中にはプロジェクトで学んだ内容を半分ほど入れた。



(5) お楽しみ (総合)

「発見！里芋おもしろショー」

収穫したサトイモの中から、面白くて自分が気に入った形をしているものを一つ選び、そのサトイモにタイトルとイラストを付け、連想できる。

これはねらいにも挙げたように“クリエイティブなものを生み出し、それら表現する力を養うこと”に繋がり、子どもらしくユーモア溢れるものが多く出揃った。

例えば、ドライヤー、雪だるま、ネズミ、車、おすもうさん、貝、果物、顔など、よく見るとそう見えてくるものばかりが集まった。

III. 当日

準備運営グループを基に、クラス全員が違う役割を持ち、4年生の展示内容以外にも発表会全体の運営に力を出した児童も多くいたが、どの児童もとても生き生きとしていた。何より1学期からコツコツと全員で準備してきたことが形となり、児童らが自信を持って当日を迎えられたことが一番の財産であった。

IV. 報告会を終えて

多くの話し合いとグループ活動に、主要教科を含めとても多くの時間を費やすことができた。今回の報告会に向けて、児童の発想や意欲を最大限に尊重し進めて行くようにした。初めは畑仕事メインであったが、学習が進むにつれて児童の興味関心も良く膨らんでいった。毎日の様子を見てみると、与えられた教材をただこなすのではなく自ら考え探求していく楽しさを、実感を伴いながら学んでいた姿は担任としてとても印象深い。

V. 終わりに

今回の学習で、「学ぶこと・創り出すこと・表現すること」の楽しさを知ったのではないだろうか。目標設定し、全体の見通しを持ち、仲間と協力して一つのものを生み出す楽しさをこれからも大切にし、成長して行ってほしい。



VI. 参考文献

- ・『そだててあそぼう 72 サトイモの絵本』
吉野照道 編、農山漁村文化協会
- ・『おもしろふしぎ日本の伝統食材 2 さといも
おいしく食べる知恵』
おくむらあやお 作、農山漁村文化協会
- ・『育てよう！食べよう！野菜づくりの本 3
さといも・じゃがいも・さつまいも いも』
小菅知三監修、ポプラ社
- ・『やさいを育てて食べよう！5 じゃがいも さつ
まいも・さといも』深光富士男 著、学研
- ・『調べてなるほど！野菜のかたち 絵で見るシリー
ズ』柳原明彦 絵と文、保育社
- ・『あきのかわらでいもにかい かがくのとも
294号 はじめてであう科学絵本』
さいとゆふじ 作、福音館書店
- ・『やさいむらのなかまたち 秋』広川沙映子 作、
偕成社
- ・『日本の食べもの 地図絵本 どこで何がとれる
のかひと目でわかる』素朴社 編、素朴社
- ・『世界の食べもの 地図絵本 どこの国で何がと
れるか、主食は何か192か国を紹介』
素朴社 編、素朴社